

(2)その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付け( ISI citation など)など。\* ISI データのない場合は、可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	取組と成果、世界的位置づけ	18年度の状況
<p><b>特筆すべき教育活動</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部(平成15年度から)、大学院(平成17年度から)のいずれにおいてもポートフォリオのシステムを導入して、学生が自分自身で学習の達成度を記録して、教員と相談、自己管理できるシステムを構築している。</li> <li>2. 学部卒業生の約85%が大学院に進学している。</li> <li>3. AO入試などの多様な入試制度を活用して、優秀な人材の入学を図っている。</li> <li>4. 留学生特別コース(平成13年度開設)、ダブルデGREE・プログラム(平成17年度開設)等、国際的な視点に立った人材育成に努めている。</li> <li>5. 英、独、仏語の外国語検定試験を受けた場合、その成績により全学教育の語学単位を認定する制度を平成11年度から導入しており、認定した学生数が年度ごとに増加している。</li> <li>6. 優れた教育を行っている教員(平成17年度から)ならびに優れた学生(平成15年度から)に対して、工学部、工学研究科として表彰している。</li> <li>7. 平成16年度から「教育相談室」を開設し、学習相談を含む様々な相談に応じている。</li> <li>8. 平成13年度学部入学者から早期卒業の規定が整備され、平成16年3月には5名、同9月には2名が早期に卒業し、本学大学院博士課程前期2年の課程に進学しており、平成19年3月までに合計36名の学生が早期に卒業し、それぞれ大学院に進学している。</li> </ol> <p>保護者に対して大学の状況を積極的に知らせるため、「あおば萌ゆ」を平成16年度より年2回発行し、送付している。</p>	
<p><b>特筆すべき研究活動</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成15年度に21世紀COEプログラムとして採択された拠点として、「ナノテクノロジー基盤機械科学フロンティア」拠点があり、本年度は最終年度として教育研究拠点形成が推進されている。また、本年度新たに設置されたグローバルCOEプログラムとして、「情報エレクトロニクスシステム教育研究拠点」、「新世紀世界の成長焦点に築くナノ医工学拠点」の2拠点が採択(281拠点申請、63拠点採択)され、いずれも21世紀COEプログラムの成果を基に発展的に教育・研究に取り組む拠点として推進されている。</li> <li>2. 文部科学省が科学技術創造立国の実現を目指した事業としての「平成19年度先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」にマイクロ・ナノマシニング研究教育センターの江刺正喜教授が拠点リーダーとして採択(46件申請、15件採択)され、将来的な実用化に向けて研究推進がなされている。</li> <li>3. 「工学研究科重点推進研究プログラム及び若手研究者萌芽研究育成プログラム」公募要領が平成19年6月の専攻長会議で承認され、平成19年7月末に今年度の採択課題が決定され研究が推進されている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>工学研究科重点推進研究プログラム</li> <li>本研究科における独創的、先駆的な研究を重点的に推進することにより、学術研究水準の向上・強化、さらに将来に向けての概算要求、競争的資金による大型プロジェクトの獲得につながることを目的とする。</li> <li>採択課題4件/年 研究費1課題500万円/年</li> </ul> </li> </ol>	

分野	取組と成果、世界的位置づけ	18年度の状況
	<p>工学研究科若手研究者萌芽研究育成プログラム 本研究科の次世代を担う若手研究者の萌芽的研究の育成を目的とする。 採択課題5件/年 研究費1課題200万円/年</p> <p>4. 先端学術融合工学研究機構(CAST) (平成16年2月設置)においては、講座や専攻間の融合による学際的研究を推進すると共に、複数の若手研究者の自発的な発想に基づく萌芽的研究や新領域の開拓を推進している。 現在9研究ユニットと22研究プロジェクトが設置されており、平成17年度より研究報告会が年1回開催されている。</p> <p>5. 工学研究科の教員の研究成果などの公表を促進する目的で、各系のローテーションにより、毎月1件以上報道発表するように推奨している。報道発表について工学研究科のホームページにも公開している。平成17年1月20日より平成19年8月1日現在の報道発表件数は274件に達する。</p> <p>6. 各系の最新の研究成果を総合研究棟の2階に展示スペース(工学研究科・工学部エキジビションラウンジ)を整備し、平成18年11月からタッチパネルによる研究紹介及び研究成果物の展示を開始した。</p> <p>7. 平成18年度の間接経費の獲得額が6億9千551万9千円に達しており、前年度より2億1千372万6千円増加している。</p>	<p>平成17年1月20日より平成18年8月29日現在の報道発表件数は156件</p>
<p><b>特筆すべき社会貢献活動</b></p>	<p>1. 加藤康司名誉教授が「トライボロジーに関する研究」において、第97回日本学士院賞を受賞(9件採択)した。</p> <p>2. 堀切川一男教授が産学官連携で優れた功績を収めた人に与えられる、「第5回産学官連携功労者表彰」で科学技術政策担当大臣賞を受賞した。 (功績名:産学官連携で炭素材料開発)</p> <p>3. ベンチャー企業などの育成を通して、研究成果の社会・経済への還元を積極的に推進しており、さらに MEMS やフラットパネルのような先端技術や、安全社会構築のための地域防災システムなど地域や企業などとの多くの共同研究により、多くの研究成果の発信を行っている。</p> <p>4. 宮城県地域における地震・津波の危険性について共通の認識に立ち、宮城県及び仙台市と地震・津波災害を軽減するため、連携・協力に関する協定書を締結し、地域との連携を推進している。(宮城県とは平成18年2月10日、仙台市とは平成18年9月1日に締結)</p>	